

四賀・中洲地区三校コミュニティ・スクールだより

2025.12. 1 四賀・中洲地区三校CSコーディネーター連絡会 発行



「高齢者と小中学生との手紙交流」今年も

コロナ禍の4年前、中洲地区社協主催で始まったこの交流事業は、この4年間に対象（贈る小中学生、受け取る65歳以上の独居老人）も拡大し、内容も充実させながら、「大人に頼まれてやるのではない小中学生の自主的な取り組み」となりつつあります。

今年からは、三校コーディネーター連絡会も共催して、四賀・中洲地区の小中学生と高齢者との交流の取組が、四賀・中洲両地区の皆様のご理解とご協力のもと、さらに発展できればと願っています。

10月29日(水)

午後1時過ぎから、南中会議室において、「小中学生からのメッセージ引き渡しの会」が行われ、各校児童会・生徒会代表から四賀・中洲地区の高齢者代表(民生委員児童委員協議会代表)



に、小中学生が書いた手紙が渡されました。今年は、中学生は1,3年生有志が参加してくれたことで、該当のすべての高齢者に小学生・中学生の両方から手紙を届くことができました。

手紙を受け取った高齢者の中には、返事を下さる方もいて、温かな交流となっています。

◆三校コーディネーターの取り組み紹介

- 2年生が担当している39本のカリンの木が良い実をつけるよう、年3~4回早朝6時から消毒や堆肥、カリン学習やカリン活用法のアイデアへの助言、収穫のお手伝いを「かりんの会」の皆さんと取り組んでいます。また、毎年文化祭の中で行われる音楽会の審査員をさせていただいている。(諏訪南中・馬淵ひとみ・赤沼)
- 学校と地域をつなぐ架け橋になろうと、毎月学校(教頭先生)と情報を交換しながら、取り組んでいます。「高齢者と小中学生との交流」では、三校コーディネーターが協力して該当高齢者数を確認し大切な手紙が確実に届くよう調整を行いました。(諏訪南中・實吉和代・福島新町)
- 学習支援で、五年生の「コメ作り」を担当しています。この夏は、「水管理」に大変苦労しました。猛暑と少雨で用水路の水量が少なくて水不足になり、心配しましたが、何とか収穫までこぎつけられてホッとしました。(四賀小・松木文夫・赤沼)
- 子どもたちや先生方の学びに地域の支援の力をつなげていくのが、私たちコーディネーターの役割だと思い、取り組んでいます。地域の学習支援や家庭科でのミシンの操作支援など、お互いにより時間が積み重ねられています。地域の皆さん、ぜひ御一緒に(四賀小・矢崎恵実子・桑原)
- 「学校運営協議会の活動が地域に伝わっていない」という課題解決のため、中洲クラブ(ものづくり部会)をはじめとする各部(交流教育・安全教育・学習支援等)が子ども達の活動を支援している様子を記事にした「中洲小CS通信」を作り、地域回覧しています。(中洲小・河西敏夫・福島)